**小学生(低)礼拝12月①**

**イエス様の教え(２) 種まき（イエス様④）**

今回は、イエス様の教えて下さったお話をします。

先回につづいて、今回は「種まき」というお話しです。イエス様は、このようなお話を通して、私たちが、どのように生活すべきかを教えてくださいました。今日は、イエス様のたくさんあるお話の中から、「種まき」というお話をしたいと思います。

みなさんがいつも食べている、野菜や果物は、一粒の種からできています。種が芽を出し、おいしいくて栄養豊富な野菜や果物になるためには、「どのように育つか」ということが

とても大切になります。

イエス様は、私たちにとって、身近な「種」をとおして、大切なことを教えてくださいました。今日はこの「種」についてのお話になります。

イエス様の時代が、いまのように農業が発展していません。なので、種まきの方法も、野菜の種を手でまいたり、小さな穴のあいた袋をロバの背中にのせて、ロバが歩くことによって少しずつ種が落ちる、というような種のまき方をしていました。ですので、種はあちこちにばらまかれ、実を結ぶものとそうでないものとがありました。

まず、道ばたに落ちた種は、どうでしょうか？

この種は芽が生えません。なぜなら、土の上に落ちているので、鳥が飛んできて食べてしまうからです。

次に、石の間に落ちた種はどうでしょうか？

この種もうまく育ちません。種から芽はでるのですが、周りに石があってうまく、伸びることができません。結局、水を吸うことができなくて根が育たないので、枯れてしまうからです。

それでは、いばらの中に種が落ちたらどうなるでしょうか？

この種も上手く育ちません。芽はでるのですが、周りのいばらがぐんぐん伸びて芽をふさいでしまいます。すると、いばらに邪魔された芽は、太陽の光を浴びることができなくて、枯れてしまうからです。

最後に、種は耕された良い畑に落ちました。

この種はどうでしょうか？やわらかい土の中で根を張り、太陽の光を浴びながらすくすくと茎や葉っぱが大きくなり、とても立派な、実をつけました。

さて、このお話は、ただの種まきのお話しではありません。

このお話でいう「種」というのは神様のみ言のことなのです。そして、種が「道ばた」「石の上」「いばら」「良い畑」というのは、み言をきく私たちの「心」のことです。

「道ばたに落ちた種」というのは、み言を聞いても信じない人です。言うことを聞かないので、サタンがやってきてみ言を奪い取ってしまうのです。そして、聞いてもすぐに忘れてしまう人です。

「石の上に落ちた種」というのは、み言を喜んで聞いてはいますが、根がないために、少しの間は信じていても、誘惑にあうと、離れてしまう人です。熱しやすく冷めやすい人ということです。

「いばらに落ちた種」というのは、み言を聞いて成長しますが、お金とか、名誉とか、地位とか、楽しみなどの欲に惑わされて、まっすぐに信仰が実らない人です。

そして、最後の、「④良い畑に落ちた種」というのは、神様のみ言を心から感謝して受け止め、み言の通りに生活をする人のことです。

皆さんの心はこの四つの中のうちどれに当てはまるでしょうか？

きっと、神様は、皆さんの心が、4番目の良い畑であってほしいと願われていると思います。

良い心に神様のみ言の種をまいて、神様の夢をかなえる人になれるように頑張りましょう。